

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第148号

令和4年春彼岸号
臨濟宗 宗禅寺
建長寺派
住職 高井和正
閑栖住職 高井正俊
羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

春のお彼岸を迎えます。ウィズコロナの生活も三年目を迎えることとなりました。例年開催しております、地域の皆様の作品展である宗禅寺春の文化展は今年も開催できませんが、ささやかながらお寺所蔵の作品を展示する特別展を開催致します。墓参の折りにお立ち寄りいただき、皆様の心が潤うことをお祈り申し上げます。

宗禅寺特別展

はやし しんじ

林心耳さん

屏風絵と

水族館劇場劇画展

彼岸中

3月18日(金)～24日(木)
午前9時～午後4時まで
入場無料です

◆故林心耳さん

大正八年東京本所小泉町(現在の西国)生まれ。三歳にして聴覚を失うものの、絵の才に気付いた祖父の導きで絵を習い始める。川端龍子の弟子阪口一草に弟子入り。龍子没後は高山辰雄に師事。五日市にて画壇とは一線を画しながらも、創作活動を続け、古代・自然・仏様を題材とした絵画・屏風絵を数多く残している。

春の彼岸早朝坐禅会

十八日～二十四日毎日開催します。朝六時～七時です。清々しい朝の空気を全身で感じます。どうぞご参加下さい。

お釈迦様誕生祭

釈迦 降誕会

4月8日(金) 13時

生田流箏の演奏と

草月流花の活け込みライブ

四月八日はお釈迦様の誕生日です。ここ何年か中断していましたが生田流の箏の演奏会と花のライブ活け込みを行います。甘茶をお釈迦様におかけして、生誕を祝します。皆様のご来山をお待ちしております。

【宗禅寺降誕会 (釈尊誕生祭)】

- 法要と御詠歌
- 鳳友会による生田流箏の生演奏
- 草月流上原瑞光先生の花の活け込み
- ※予約不要。どなたでもご参加いただけます

境内建物維持管理費 ご報告

令和2年より旧来の麦鉢を改めて、境内建物維持管理費のご協力を歳末にお願いしております。令和3年度の境内建物維持管理費が以下の通りとなりました。ご協力をいただきました皆様に御礼を申し上げます。これからよろしくお願い致します。

宗禅寺 境内建物維持管理費 令和4年3月1日現在

◆納入 662軒

◆金額 二百六十萬五千元

以上

二月三日 節分追儼

新春祈禱法要報告

去る二月三日に節分の豆まきと新春祈禱法要を規模縮小にて執り行いました。

立春の節分は旧暦では一年の始まりとされていた日になり、毎年新春祈禱のお札をお供えし、薬師堂にてお勤めをしています。

残念ながらコロナの情勢により大規模な豆まきはできませんでしたが、皆様からお申込みいただきましたお札をお供えして、総代さんと薬師講の会長さんと和尙二人で祈禱法要を執り行いました。

お札をお求めいただいた皆様に感謝申し上げますと共に、この一年の檀信徒皆様方のご健康をお祈り申し上げます。

また、お札をお求めいただいた皆様、誠にありがとうございました。



土曜講座

宗禅寺 涅槃会 ねはんえ お釈迦様ご命日

二月十二日の土曜講座は涅槃会として開催しました。二月十五日は仏教の開祖お釈迦様の御命日で、お釈迦様の御命日の法要を涅槃会と呼んでいます。

当日は檀信徒でもあるハーピストの太田博子さんがご自身のご息、ご令嬢と三人でヴァイオリン・チェロ・ハープの協奏も披露して下さいました。

また、併せて開催していただきました林心耳さんの屏風絵について、ご子息である慶應大学名誉の林温先生からのお話しもいただきました。

聴覚を失ったお父様の描いた、自然・古代・仏様の絵画は春のお彼岸にも展示致します。お彼岸の特別展にお立ち寄りください。



劇団水族館劇場

春の野戦攻城 宗禅寺公演

日程仮決定

昨年、第二駐車場公演を行った水族館劇場がまたやって来ます。今回の芝居は歌舞伎の源流と云われている安土桃山時代の女性芸能者、出雲阿国（いずものおくに）が主役となりそうです。またまた時空を超えたストーリーになりそうですが、ご期待してお待ち下さい。

公演は五月十九日から六月六日まで全十三公演の予定ですが、日取りは少し動く可能性もございます。正式に決定致しましたら、皆様にお知らせ致します。

また、四月一日前後から第二駐車場劇場の設営も始まります。ご近所の皆様方におかれましては、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが温かな眼差しでお見守りいただけると有難く思います。よろしくお願い致します。

散骨について 思うこと



散骨という言葉が聞かれるようになって久しくなりました。少子化が進んで、先祖代々のお墓をお守りし、次世代に継承していくことが困難になったことが一番の理由だと思われませんが、お墓の多様化が進んだ結果でもあると思います。小規模なご夫婦単位のお墓や樹木葬、大規模な永代供養の合祀墓、ロッカーのような屋内納骨堂など埋葬の形態は実に様々です。散骨もそんな多様化したお墓の形や葬送形式の一つとして実際に行われるようになりました。

現代の散骨の流れが始まったのは平成三年のことです。市民団体である「葬送の自由をすすめる会」（現在はNPO法人）が海や山への散骨を「自然葬」と独自に定義し、平成三年十月に相模灘で第

一回目の散骨が行われました。そして、実際に散骨が行われたことによって散骨が抱える問題点も明らかになりました。

■散骨は法律違反か否か

それは散骨の法律上の位置付けです。刑法の「遺骨遺棄罪」との区別をどうするのかが、そして「墓地埋葬等に関する法律（通称・墓地法）」では「墓地以外の区域」での遺骨の埋葬は禁じられています。平成三年十月の散骨にあたって、国は刑法的には「葬送のための祭祀で、節度をもって行われる限り問題はない」との見解を示し、墓理法に関しては「この法律自体は、通常の埋葬を対象としており、散骨は想定しておらず対象外となる」との見解を示しました。つまり、死者を弔う祭祀として相当の節度を以って行えば、散骨は違法にはならないという判断を国が下したことになります。しかし、法律上問題ないとしても散骨は自由に行って良いものなのでしょうか？

■熱海で指定された指針

熱海市では平成二十七年に散骨に対しての独自の指針をまとめました。観光都市である熱海で無秩序に散骨が行われてしまうと街のイメージが損なわれてしまう恐れがあったからです。観光都市に限らず、魚の養殖など漁業が盛んな町でも同じことが言えるかと思えます。熱海市がまとめた指針では「熱海市内の土地から10m以上離れた海域で行う」こと、「海水浴客が多い夏場における散骨を控える」こと、「お遺骨をパウダー状にして水溶性の袋にいれる」など散骨事業者への責務として六点を掲げました。

■散骨するなら分骨したお骨を

散骨は自然に帰るという意味で理想的な埋葬方法であるとも思いますが、散骨をしたその土地に暮らす人々のお気持ちも考えておかねばならず、あまり現実的な方法とは思えないのです。

もしどうしても散骨をご希望される場合は、火葬する際に分骨をし、少量のお遺骨を然るべき業者に依頼して行う方法が良いと思います。お墓を所有していない方が、安易に散骨を選ぶことだけは避けて欲しいと思うこの頃です。

「僕の父は牛乳屋であり、小さい成功者の一人らしかった」といったのは、芥川龍之介でした。芥川の実父は、新原敏三で築地入船町にあった牛乳販売会社「耕牧舎」を明治一五年から経営していました。築地の店は、店舗兼住宅と裏には牧舎と搾乳所があり、牛を飼育していたのです。芥川は生後まもなく母方の実家である芥川家に預けられ、二歳のとき養子となり芥川姓となりました。

イギリスの探検家イザベラ・バードが明治一一年六月から九月にかけて東京から新潟を経て、北海道を旅したときの紀行文『日本奥地紀行』に、山形県内で牝牛を見て新鮮な牛乳が飲めると喜んで、「こんな強烈なおいと味なのに、お茶に入れて飲むなんて」といって、そこにいた人々がみな笑ったと書いています。日本人には乳は子牛が飲む以外考えられなかったようです。

西洋医学の第一人者であった松本順は、「新鮮な牛乳は無比の滋養品で、肺病、食欲不振の病人や母乳のない小児に大変良いもの」と牛乳の効用を宣伝し、牛乳の飲用を広めました。この結果、牛乳の価値が広く一般に認められるようになり、牛乳の販売量や乳牛の頭数も増加し、牛乳業者の数も多くなったのです。

西多摩村が牛飼う村として映画化されたり、写真集『牛飼ふ小学校』が発行されるなど全国的に知られるようになったのは、昭和一六年ごろのことです。

西多摩村が牛を飼うようになった経過を、石田作市は写真集『牛飼ふ小学校』の中で、次のように語っています。

大正七・八年には養蚕業が大盛況であったが、だんだんと繭価が低迷し、経営不振に陥る養蚕農家が続出し、日本一の養蚕村が、日本一の借金村といわれるようになった。それでも、養蚕偏重の農業経営を改革しようとする者がいなかった。

石田はこの現状を何とか打開する方法がないかと考え、まず養蚕を主として行うならば生糸の製造から販売までを養蚕農家が行うべきであると主張し、組合製糸「西玉社」を設立した。一方、生糸は外国市場に左右され、価格の変動が激しく養蚕の収入が安定していない、適当な副業をみつけないければならないと考えました。

養蚕農家の経営する桑園を調査してみると総面積の二割ほどが荒廃しているので、これを整理しても養蚕には影響しないことがわかり、この畑を利用して手間のかからない農作物を植えて蚕以上の収入を得ることにしました。

そこで石田は、乳牛を飼育し、二割の畑には牛の飼料作物を作ることを提案しました。これによると、西多摩村では四〇〇頭近くの牛を飼うことができ、一頭あたり五升の牛乳が生産できるとすれば、飼料代を除いても一日四〇〇〇円の収入があると試算しましたが、農家の人たちにはなかなか理解してもらえなかったようです。

昭和一三年に西多摩村は、国から経済更生特別

助成村に指定されました。この補助金を利用して、実際に牛を飼育することにしました。

昭和一四年、西多摩尋常高等小学校（現在の羽村第一中学校）のところに牛を飼う施設「農民道場」をつくり、千葉県から一頭の乳牛購入し、飼育し始めたのです。こうして一般農家でも乳牛を飼うようになり、北海道から七〇頭の牛を購入するまでになりました。

「農民道場」では、乳牛四頭、牡牛一頭、豚一頭、鶏一五羽を飼いました。乳牛の担当は高等科の女子児童で、搾乳から餌やり、牛舎の清掃などを行いました。

牛当番であった高等科二年の田村ハツは、初め私達はとも恐かった。

「おめえ先に牛につかまって見ろ」

「おめえ先にやって見ろ」

と言ってお互いに譲り合ってばかりいたものだ。今では牛の事なら何でも出来ると言ってもよい程になった。こうなると牛がとても可愛くなる。牛も私達になついて来る。当番の交代がうらめしい。（写真集『牛飼ふ小学校』）と感想文を書いていきます。

「農民道場」は、新しい農村への転換を目指していましたが、太平洋戦争の激化とともに人手や飼料不足により牛は一頭もいなくなりました。

《参考文献》

武田尚子著 『ミルクと日本人』
イザベラ・バード著 『日本奥地紀行』

和正和尚日單

お正月も七草までは穏やかに過ごせましたが、またまたコロナ感染拡大にて、様々な集まりが中止となったのではないのでしょうか。マスクと密を作り出さないようにつとめながら、色々なことをしていきます。

○振替休日 小学校展覧会の振替休日。ルリカノ綾子さんと六道山公園へ遊びに行きました。 11/29

○托鉢 西東京臨済会の歳末助け合い托鉢。福生、昭島、五日市の三ヶ所。私は五日市にて托鉢。ご喜捨は各自自治体社会福祉協議会様へ寄付。 12/3

○消防 消防団で地元の東小学校三年生に授業。地域の安全暮らしを守るというテーマ。校庭に消防車現る。 12/6

○寺子屋委員会 続・かわさき『歴代系統鑑』を見る。三月の春の文化展の開催についても協議。 12/8

○保護司研修 午後に福生もくせい会館にて保護司研修。保護観察官さんのお話しを拝聴。 12/9

○リアルてらこや らい麦ハウスさんの四回目のリアルてらこや。羽村のフードバンクからいただいたビスケットを使ってみんなでお菓子を手作り。勉強以外の楽

しさも。

○消防 分団忘年会

12/11

○薬師講 にちなんさんのお弁当でお寺で忘年会。節分のこと、とうろう流しのことなども協議。 12/12

○消防 消防本部の忘年会へ

12/13

○西東京臨済会 幹事会の忘年会を宗禅寺で。歳末托鉢の会計報告と二月の新年総会について。新年総会開催か否か協議。 12/15

○健康体操 介護予防体操の皆様が年末のお掃除をして下さいました。ガラス拭き、本堂、坐禅堂お掃除。ありがとうございました。 12/17

○土曜講座 福生子ども食堂の厚谷まゆみさんとライ麦ハウスの水嶋恵子さんがご講演。子供たちを取り巻く環境のいま。夏休み終わると痩せてるお子さんがいるそうです。学校以外でも安心して集まれる場所が必要。 12/18

○ルリカノ 小学校終業式。冬休みに入りました。 12/24

○谷中 神楽坂ギャララーEITOEIKOにて、劇団水族館劇場さんを陣中見舞い。その後ルリカノ綾子さんと実家の谷中へ。クリスマス募参。父母、兄家族と過ごす。 12/25

○護持会 年末清掃と薬師講役員の皆様による除夜の鐘の支度。今年は中国人の鄭さんが毎日来て落ち葉掃除をして下さり

ましたので、銀杏は綺麗に片付いていましたが、冬の落ち葉はやはり多い。大晦日の焚火用に古いお塔婆も回収。 12/26

○消防 夜に市役所で歳末特別警戒の激励式。 12/27

○消防 歳末特別警戒。市内で火災予防広報。 12/31

○除夜の鐘 人出が戻ってきた感じですが。皆様にとって良い一年となりますように。 12/31

○元旦 三島龍沢寺の後藤榮山老師にお年始ごあいさつ。元旦は天気よく富士山もきれい。 1/1

○谷中 親戚の新年会は中止も、谷中へは帰省。世田谷の叔母さんも。 1/2

○水族館劇場 境内本堂前にて水族館劇場の『野ざらし姫』公演。今回は出演しませんでした。五月からの公演も決定し、コロナが拡大しないことを祈るばかり。 1/3

○年始ご挨拶 総代さんにお年始挨拶周り。正俊和尚と。 1/4

○新年会 お寺で総代さんとの新年会。本堂でお経を一緒にお読みして檀信徒先祖代々供養。 1/6

○リアルてらこや 都内で葬儀があったため、私は欠席。書初めとお汁粉作ってみんなで食べたそうです。 1/8

○消防 晩に車庫で出初式の準備等。 1/8

- 坐禅会初め 土曜坐禅会新年一回目。 1/8
- 消防 羽村市消防団出初式。第一中学校で一斉放水。来賓は例年より大幅に少なく車両閲団もなしです。 1/9
- 朝粥坐禅会 というわけで、朝粥坐禅会は欠席。坐禅後七草粥をいただいたはずです。 1/9
- ルリカノ 始業式。寒いけど元気に登校。 1/11
- 写経会 写経会初め。 1/11
- 東小学校授業参観 コロナで中止に。 1/15
- 雪山 ルリカノ綾子さんと日曜日午後から越後湯沢へ。月曜日は振替休日。雪山で楽しく遊ぶ。 1/16～17
- 寺子屋委員会 『羽村町の板碑・石仏』から「馬方聞書」を読む。大正十四年、西多摩では羽村に百頭の馬がいたと。多摩川からの砂利採取に従事していた馬が多かったそう。 1/18
- 宗禅寺 林温先生ご来山。お父様の故・林心耳さん展覧会の打ち合わせ。 1/19
- 書道教室 和尚さんの書道お稽古。毎年一月は書き初め。 1/20
- 土曜講座 三軒茶屋太子堂八幡神社の畑中和彦宮司が来て下さり、神社の神様と祭礼についてお話しして下さい。羽村動物園のキリンの出産は、コロナ拡大で園

- 長さん動物園外での活動に制限あるそうので急遽取り止め。テレビはむらの動物園の歴史等に代替 1/22
- 防火設備点検 青梅の東新商会さんによりお寺の防火設備の点検が入りました。異常なし。 1/26
- 消防 晩に上水町内会の防火水槽に水を補充。壊れていて空っぽになっていた水槽。補修工事完了とのことで、水をいれる。 1/26
- 西砂・林泉寺 二月に行う和尚さんの一周忌法要の打ち合わせ。林泉寺は川崎の中里家建立のお寺 1/28
- 文化財視察 羽村市の文化財委員会が視察の予定もコロナで中止。 1/29
- 消防 続・上水町内会防火水槽充水作業。寒い中お疲れ様でした。 2/2
- 節分 大規模な豆まきはできずとも、葉師堂でコロナ退散疾病退散の祈願法要。お子様にはお菓子のプレゼント。お礼お申込みは三百本。ありがとうございます。 2/3
- お札配り 羽村や近隣福生の節分祈符札をお届け。遠方は郵送 2/5～6
- 文化展実行委員会 コロナ拡大で実行委員会はひとまず中止。開催については、三月頭の状況で。 2/6
- 林泉寺 一周忌法要の支度へ。前のご住職ご逝去後、専任のご住職不在のため、近隣のお寺で支えていきます。 2/7

- 林泉寺山内玄黙和尚一周忌 ようやく本番。納骨もして無事円成 2/8～9
- 林心耳さん展覧会 展覧会準備の搬入作業が始まりました。 2/10
- 林心耳さん展覧会 思ったよりもたくさん作品集まる。屏風絵、絵画。古代と自然と仏様と。 2/11～20
- リアルてらこや またしても葬儀で私は欠席。毎回来て下さるお子様もおり、定着してきています。 2/12
- 土曜講座 林心耳さんのご子息、林温先生の講演と檀信徒でハーピストの太田さんファミリーのヴァイオリン・チェロ・ハーブの演奏。私は一休さんについてお話し。 2/12
- 西東京臨済会幹事会 新年総会は中止。三月十一日震災托鉢も中止。新年度の活動を確認。 2/14
- 寺子屋委員会 お通夜のため途中で退席。川崎歴代系統鑑図を読み進め。 2/16
- 消防 新しく配備された浄水濾水器を使ってみる。多摩川の水を飲みました。 2/16



正俊閑栖未完成日記

なにか世の中、世界が、騒然としてきました。コロナ・オリンピック・ウクライナ先のことの不透明ですが、みんなで智慧をしばってやっていきましょう。すでにご承知のことですが、コロナの影響を、寺族も、もろに受けました。檀信徒や地域の皆様に御迷惑をかけ申し訳ありませんでした。コロナ恐るべしです。

十一月

- 来年の鎌倉禅研究会と宗禅寺土曜講座のテーマ・登壇者の人選など始める。 12/1
- 一の付く日の写経会十四人。 12/1
- 銀座・和光で並木恒延展。シネマスウィッチで映画。三笠会館で食事。 12/2
- リアルてらこや反省忘年会。夜七時半から土曜坐禅会十三人。 12/4
- 第一日曜日の朝粥坐禅会、六時〜九時。鐘をついて坐禅、そして粥坐。海外の方も参加。全員で十五人。 12/5
- 三鷹で高校の小クラス会。のんびり。 12/5
- 宗禅寺詠歌講、成道会と忘年会 12/7
- 寺子屋委員会の勉強会。新井政昭さんから中野喜一さんへのお願い状。 12/8
- 建長寺にて鎌倉禅研究会。采澤良晃「蘭溪道隆と金剛経」。白川宗源「中世中国禅林の出版事業」を拝聴。三十人の参加者。終わって尾崎で一献。建長寺・円覚寺の若手僧侶が参加。 12/9
- 宗禅寺所有芝増上寺徳川灯籠の調査に伊

藤友巴さん来山。ありがたい 12/10
 リアルてらこや・写経会、そして坐禅会。合計七十人。 12/11

○鎌倉の友人稲毛美穂さん宮古島の仕事が今月で終了とのこと。急遽淑子さんと二人で宮古島へ。二日間、稲毛さんが宮古島の隅から隅まで案内して下さる。リゾート気分を満喫。 12/13

○宗禅寺にて西東京臨済会の忘年会。12/15
 ○宗禅寺ヨガ教室に参加後、鎌倉歴史交流館（頼朝以前）を見、なか川から美学、旧交を楽しむ。 12/16
 ○「宗教と日本人」岩本亮輔読了。神楽坂エイトエイクで千葉大二郎展を見る。モスラの写真版画購入。日本近代美術館で「民芸百年」を見る。 12/17

○宗禅寺土曜講座 和正住職（室町幕府と五山）。厚谷まゆみ（福生子食堂の五周年）。水嶋恵子（リアルてらこやの今後）。今年最後の坐禅会 12/18

○塩之内内科で定期検査。鎌倉春秋伊藤玄二郎さんの招待で稲村ヶ崎、月山で遠山敦子ご夫妻と会食。 12/20

●九月の彼岸より毎朝七時の坐禅会に見えている鄭光潤さんが、ずっとお寺の外掃除、そして檀家さんのお墓の美化までして下さっています。感謝只感謝。

○横田南嶺老師より彭丹さん経由で・柳幹康先生、白隠、講座ファイルを送っていただく。白隠さんの面目一新 12/23

○衣川賢次先生の臨川書店『臨済』読了。貴重な本、二回目も読みます 12/24
 ○禅センターで「新聞サロン」鹿野川喜代美さんの名展開。 12/25
 ○水族館劇場の方、来年の相談に来山。護持会・薬師講役員で歳末大掃除。鄭さん

の毎日の掃除もあり、寺が隅から隅まで徹底的に綺麗になる。こんなことは寺始まって以来、初か。 12/26

○夕方六時、鎌倉美学でフラメンコとギター。その前にカレンダー配り 12/26
 ○うどん・そば教室に参加。一回だけ、そば作りをさせてもらう。 12/27

○お正月の施物発送作業終了。檀信徒・関係者で1200通。和正和尚正月飾りなど支度。五尊守り登場。 12/30

○鎌倉禅研究会の案内状も支度完了。
 ○除夜の鐘 薬師講の方が、焚火の管理、絵馬札の受け渡し、寺族で甘酒（今年も羽村の酒粕を提供いただきました）、十一時四十五分から一時ではぼ終了三百人でした。関係者で年越しそば食べて解散。 12/31

●十二月の体重は62キロ前後をいったりきたり、なかなか定まりません。コロナも幾分下火となり、お寺の定例行事も何となく落ち着いてきたかなという処です。来山者は2300人でした。

十二月

○朝七時から一炷三十分の坐禅。寒いですが一所懸命坐っています。鄭さんはほぼ毎日、星野さんは土日です。 1/1

○えりか・コロンの御家族の坐禅指導のため建長寺へ。坐禅は永井教学部長がして下さる。諸堂拝観後、点心庵で食事。ご主人はベネズエラ大使。 1/2

○水族館劇場・野外劇「さすらい姉妹」野ざらし姫——境内で公演 1/3
 ○年頭挨拶に総代さん宅に問候 1/4
 ○十時より十一時まで本堂でヨガ教室。十一時より総代さんご夫婦を招いての新年会。初めに本堂で本尊様・歴代和尚・檀

- 信徒先祖代々の方々にお経 1/6
- リアルてらこや 勉強・書初め・お汁粉、そして坐禅。大人小人三十人。夜七時半から一時間坐禅会。 1/8
- 今年最初の朝粥坐禅会、十人 1/10
- 庭園研究家、吉川功さんへ建長寺開山様関係の本送る。写経の会。鎌倉殿に合わせて松林清明先輩『承久記』を読み出す。 1/11
- 吉川順弘『仏像破壊の日本史』読み出す。 1/13
- 禅センターのため込んでいた書類・講義録・活動記録等の仕分け始める 1/13
- えりか・コロンさんを始め「オペラ・禅」の関係者五人、鈴木大拙・西田幾多郎の墓参。円覚寺伝宗庵にて横田南嶺管長と相見。松ヶ岡文庫訪問、伴さんに丁寧な案内をしていただく。 1/14
- 鎌倉より稲毛・渡部さん来山 1/16
- 立川ルミネでランニングシューズ買う。 1/17
- 今までのもの穴があいてきた。 1/17
- 宗禅寺、寺子屋委員会勉強会。六時半ゆとろぎにてJC45周年式典 1/18
- 林温先生、姉長友夫妻と来山。父林心耳展の下見・打ち合わせ。横田管長と相談して一月の鎌倉禅研究会中止に 1/20
- 禅センター健康体操十人。写経会十人。オミクロンますます猛威。 1/21
- 土曜講座 和正住職(禅文化)、羽村動物園ビデオ鑑賞、畑中和彦宮司(神社と祭礼)二十五人。木彫教室十人。坐禅会十三人。皆さん元気。 1/22
- 禅センター紙書類などの整理ひと段落。今度は写真の整理にとりかかる。恐らく三十年分になる。どうなるか。 1/24
- 御詠歌講、今年初集まり。皆さん元気。青梅へ菊地玉雲さんの講談を聞きに「宇

- 治川先陣」めりはりしっかり 1/25
- 砂川林泉寺で和尚の一周忌衆評 1/28
- 新聞サロン。緑川明世尼来山。夜坐禅会、皆さんコロナ禍でも旺盛。 1/29
- 健康管理は朝の筋トレ・テレビ体操・夕方のジョギングと、しているつもりだが体重が63キロになったりする。なかなか難しいものです。一日の生活リズムは出上がり、七時半には眠くなる。今月の来山者は1036人でした。
- 二月
- 写経の会七人。オミクロン効果か2/1
- 節分会、申し込んでいただいたお札三百本、今年も薬師堂で関係者のみで豆まき、井上信治さん、田村利光さん来山。福豆や子供のお菓子は例年通り進呈。百人位の方が来山か。 2/3
- 四谷・麹町ユニコ画廊(白石ちえこ雅布かけ展)へ。水族館とつながる。 2/5
- 朝粥坐禅会 皆で朝の冷気を味わう。十人。高崎芸術劇場「オペラ・禅」を観賞に淑子さんと。高崎観音お参り、少林山達磨寺で広瀬正史住職と三十年ぶりに会う。互いにいい歳、顔にて。 2/6
- 砂川林泉寺玄黙和尚の一周忌 2/8
- 島田葬儀屋に頼んで、五日市長友さん宅より林心耳さんの屏風絵など大型のものを運んでもらう。思わぬ雪効果。長友さん達小型車で三往復。寺に二〇〇点を超える作品が集まる。 2/10
- 十時頃より林心耳展、作品を各部屋と廊下に並べる。徳雲院・即清寺・福德寺・玉林寺・宝清寺さん来山。それぞれ希望の作品を予約。林温さんラベルや配置に天手古舞。鄭さんお手伝いで大助かり。午後より正式オープン。一時より写経会。

- 参加者に作品PR。 2/11
- 作品展、林先生まだまだ忙しい。リアルてらこやで子供たちに作品のお話し。林温・長友夫妻・鄭さん、ラベルづけなど午後まで多忙。でもほぼ落ち着く。明日からは寺関係者で対応。作品、飛ぶようにでてゆく。 2/12
- 一時から土曜講座。和正和尚(一休さん)林温先生(父心耳を語る)太田ファミリーハープ・チェロ・ヴァイオリンの演奏。大いに楽しむ。眼も耳も。七時半より坐禅会一炷で絵の鑑賞。希望者に絵進呈。皆さん気持ちよく持つて帰る。 2/12
- 作品展三日目。展覧会を見た人が、友達を連れて来て下さり、絵を求めて下さる。ありがたい。 2/13
- 岡本亮順「宗教と日本人」二回目読了。作品見に来る人多数。平置き作品はほぼ無くなる。百点以上か。三日間の奮闘のせいか喉が少し変。無熱。
- 涅槃会 御詠歌の方々がお参りに来て下さる。林心耳作品展も鑑賞、中外日報甲田さん取材に来山。
- 林心耳さん屏風絵展覧会。作品205点、150点以上の作品が、あたたかく受け入れてもらえました。特に小川の宝清寺、油平の福德寺、五日市の玉林寺・徳雲院そして青梅の即清寺さんにはお世話になりました。宗禅寺にも作品が十点以上。まだ、作品があります。希望の方は申し出下さい。
- 二月後半は鎌倉禅研究会始め、予定していた多くの行事が、コロナの影響を受けてお休み・中止となりました。お彼岸の頃には平穏な日常がもどってくれることを願っています。

土曜講座のお知らせ

地元羽村を中心に西多摩の文化や暮らしがテーマです。普段住んでいる町の豊かさの再発見へ。お茶代として三百円お願ひ致します。

- ◆第六十五回 四月二十三日(土) 十三時〜十六時
仏教講座 日本仏教史・室町時代
「戦国武将と仏教」 住職 高井和正

- 【羽村の文人・中里介石忌によせて】
中里介石を語る その6
宗禅寺文庫長中里介石山研究家 島田秀男先生
中里介石 『大菩薩峠』から
講演「お浜殺し」 講師 菊地 玉雲師

- ◆第六十六回 五月十四日(土) 十三時〜十六時
仏教講座 日本仏教史・安土桃山時代
「戦国武将と仏教その2」 住職 高井和正
「現代っ子とスポーツ」
福生スपोर्टクラブGONA代表 篠田 直さん

- ◆第六十七回 六月十八日(土) 十三時〜十六時
仏教講座 日本仏教史・江戸時代
「江戸幕府と檀家制度」 住職 高井和正
「人に寄り添う」
チャイルドライン 青柳里江子さん

- 「ペットと共に」
ペット霊園支配人 荒井秀年さん

- ◆第六十八回 七月九日(土) 十三時〜十六時
仏教講座 日本仏教史・江戸時代
「隠元隆崎と黄檗宗」 住職 高井和正
「西多摩の金融史」
愛知大学准教授 早川大介先生

- 「水―生まれはどこ？何が好き？趣味は？」
東京農工大学名誉教授農学博士 島田 清先生

鎌倉禅研究会のお知らせ

元気に継続中です。建長寺入山料五〇〇円、資料代五〇〇円。予約不要です。

- ◆第七十一回 三月十七日(木) 会場 建長寺
・禅と鎌倉―禅文化の歴史を踏まえて―
駒沢大学講師 館 隆志 先生

- ・中世鎌倉の禅院・律院と雲版
法政大学助教授 大塚 紀弘 先生
◆第七十二回 四月十四日(木) 会場 建長寺
・鎌倉の禅宗と弁財天
長谷寺観音ミュージアム首席学芸員 三浦 浩樹 先生

- ・鎌倉殿と仏師・仏像
鎌倉宝物館新館長 山本 勉 先生
◆第七十三回 五月十九日(木) 会場 建長寺
・三國伝記と夢窓国師
東京大学史料編纂所准教授 川本 慎自 先生

- ・五山僧がたなぐ列島史
名古屋大学教授 斎藤 夏来 先生
◆第七十四回 六月二十三日(木) 会場 建長寺
・鈴木大拙の果たしたこと
筑波大学非常勤講師 円覚寺職員 蓮沼 直應 師

- ・建長寺第四世大休正念の語録から
法政大学講師 建長寺研究員 彭 丹 先生
◆第七十五回 七月七日(木) 会場 建長寺
・都市鎌倉の成立過程―頼朝の時代―
鎌倉歴史文化交流館学芸員 大沢 泉 先生

- ・北条氏の時代(鎌倉殿をめぐる)
東京大学史料編纂所教授 本郷 和人 先生

※時間はいずれも午後一時〜四時半になります。

宗禅寺毎月の活動

- 朝粥坐禅会…… 毎月第一日曜日 朝6時〜8時半 禅の食事の作法でお粥をいただきます。
●土曜坐禅会…… 毎週土曜日子供:18時〜19時 大人:19時半〜20時半 繰り返しの腹式呼吸。深い呼吸でココロも安定。
●彼岸早朝坐禅会…… 彼岸中毎朝6時〜7時。山門上の鐘を撞きながら般若心経と一緒に読んでから坐禅をします。
●土曜講座…… 毎月1回の公開講座。13時〜16時 地域文化と財産の再発見。いまある世界をより豊かに感じるために。
●写経会…… 毎月1日、11日、21日 13時〜15時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。
●御詠歌…… 毎月第1・3火曜日 1時半〜3時 指導:高井淑子
●手打うどん教室…… 現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生
●いきいきヨガ…… 毎月第1、第3木曜日 10時〜11時 予約不要 ¥500 大きめのバスタオル要持参
●木彫教室…… 毎月第1・第3土曜日 13時〜16時まで 講師:新井達矢先生 見学できます 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途)
●俳句教室…… 毎月1回、適宜。問い合わせ先:中野つたえ ☎554-2444
●尺八吹禅の会…… 毎月第1、第3月曜 夜7時〜9時頃 坐禅15分、練習60分、練習60分、練習60分、練習60分
●介護予防体操…… 健康体操の集いです。直接、禅センターにお越し下さい 毎週金曜日 14時〜16時
●お寺deこころの相談…… タロットによる心理セラピーです ハムサまで 毎週日曜日13時〜18時 要予約 090-6792-4784
●新聞サロン…… 毎月第4土曜日 13時〜14時 新聞を楽しく読んで世界を広げよう。活字から読む力をお子様の参加大歓迎です。要予約 090-6549-0751 講師:鹿野川喜代美さん ☎042-554-7343 まで
○女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ―活動中です― ○宗禅寺禅センターをお使い下さい。
■各教室の会場:●は宗禅寺 ○は禅センターです